

討に資するための本年度第一回の教育
広聴会が、六月十日、相馬郡鹿島町を
会場に開催された。

「学校教育における指導活動を充実
させるためには、教育の諸条件をどの
ように整えたらよいか」のテーマのも
とに行われたが、参加者からは、多く
の建設的でアイディアに富んだ意見が
だされ、盛会のうちに終了した。

また、六月十八日には、第二回の教
育広聴会が、県中地区の郡山市におい
て行われた。

テーマは「豊かな人間形成を目指す
生がい教育の一環として、幼児教育を
振興させるにはどのような方策を講じ
たらよいか」であり、多くの実践家よ
り、貴重な体験に基づく有意義な意見
が多くだされた。



(県中地区教育広聴会)

「高校総体」の準備すすむ

昭和五十三年度全国高等学校総合体
育大会(インターハイ)夏季大会は福
島県を主会場に十九種目、山形・岩手・
青森の三県で六種目が開催されます。

○ 大会の目的

この大会は、高等学校教育の一環と
して、高等学校生徒に広くスポーツ実
践の機会を与え、心身ともに健康な高
等学校生徒を育成するとともに、高校生
相互の親睦を図るものです。

本県においては、これを契機に高校
生を中心とした体育スポーツの画的
な振興を期するとともに、体育施設の
整備充実を図り、もって新しい時代に
即応する体力・気力あふれる青少年の
育成と、明るい県民生活の樹立に努めよ
うとするものであります。

○ 大会のあゆみ

この大会は戦前「全国中等学校体育
大会」として実施されていたものです
が、戦後の学制改革により「全国高等
学校選手権大会」として種目別に開催
されるようになりました。昭和三十八
年度の新潟県を中心とした大会より種
目別大会を総合して、名称も「全国高等
学校総合体育大会」と改め、夏期大会
(二十五種目)・冬季大会(四種目)に
分けて開催され今日に至っております。
昭和四十七年、山形県を中心に開催

された際には、本県においてバスケッ
トボール競技ほか四種目を開催してお
ります。

○ 大会の規模

夏季大会は、二十五種目に選手・監
督・役員約三万五千人が参加して行わ
れますが、本県では総合開会式と陸上
競技を始め、十九種目に約三万人が県
下十三市町村に相集い、国民体育大会
を上回る規模の大会として実施されま
す。

○ 大会開催準備

昭和五十年六月に県準備委員会が発
足し、準備委員会事務局も県自治会館
内に設置され、準備事業を進めています。
すでに大会シンボルマーク及び大会
テーマ(限らない力と豊かな心)も決
定し、総合的な準備が着々と進められ
ていますが、特に本年度には次にあげ
ることがらについて重点的に推進しよ
うと計画を立てております。

(1) 大会競技運営組織の充実

県準備委員会事務局も七名増員され
総勢十二名となり、施設・式典・競技
運営・選手強化・広報・宿泊交通等の
係に分かれて準備事業を進めておりま
す。

開催市町村においても、競技種目開
催のため準備委員会を発足させ、事務
局が設置されることになっております。
(2) 大会競技会場の整備

県としては、既存の施設をできるだ

け活用することを基本とし、今年度は
県立高校体育館及び荻野漕艇場の整備
等を重点事業として進めており、その
他についても年次別に整備していく方
針です。

競技種目開催市町村においては、市
町村有施設の整備充実を図ることにな
っています。

(3) 選手の強化及び競技役員の養成

昭和五十一年度における選手強化事
業については、県高体連と(財団法人)
福島県体育協会の種目別競技団体が中
心となって、県・地区ごとに合同練習・
講習会・記録会・スポーツ教室等を実
施し、スポーツの水準向上を図るとも
に、スポーツセンター校(延べ百五
校)、強化指定チーム・選手、県外合
宿練習等を設けて選手の頂点強化を図
ります。

競技役員の確保については、多数の
役員を県内より養成するように努め、
特に審判員については全国高体連・中
央競技団体と協議し、各種講習会及び
研修会、中央派遣等を実施し資格取得
に努めます。

この大会を成功させるためには、参
加選手・監督・役員はもちろんのこと、
競技団体、競技開催市町村、学校関係
者、関係機関等全県民の御理解と御協
力が必要です。

全国より集う若人たちのために、ぜ
ひ高校総体を成功させましよう。